

第127回 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員会 議事録（案）

日時：2025年7月25日（金）18:00～19:15

開催方法：Web（Zoom）開催

出席者

大阪府病院薬剤師会	竹上 学、土井 克彦	京都府病院薬剤師会	小阪 直史
兵庫県病院薬剤師会	矢野 育子	滋賀県病院薬剤師会	森田 真也、早川 太朗
奈良県病院薬剤師会	金松 誠、青井 博志	和歌山県病院薬剤師会	野際 俊希
大阪府薬剤師会	乾 英夫、伊藤 憲一郎、松浦 正佳	京都府薬剤師会	守本 真人
兵庫県薬剤師会	鄭 淳太、住谷 庸子	滋賀県薬剤師会	木村 昌義、隠岐 英之、渡邊 真樹
奈良県薬剤師会	堀本 佳世子、木田 大樹	和歌山県薬剤師会	児嶋 慶和、竹谷 美賀子
京都薬科大学	北田 徳昭、津島 美幸、橋詰 勉	京都大学薬学部	宗 可奈子
同志社女子大学薬学部	関本 裕美、岸本 歩、芝田 信人	大阪大学薬学部	池田 賢二、廣部 祥子
大阪医科薬科大学	角山 香織、古川 哲也	近畿大学薬学部	細見 光一、小竹 武
摂南大学薬学部	辻 敏和、田中 雅幸	大阪大谷大学薬学部	名徳 倫明、小畑 友紀雄
武庫川女子大学薬学部	田内 義彦、吉田 都	神戸薬科大学	白木 孝、猪野 彩
神戸学院大学薬学部	徳山 尚吾、橋本 保彦	兵庫医科大学薬学部	桂木 聡子、村上 雅裕
姫路獨協大学薬学部	柳澤 吉則、神林 祐子	立命館大学薬学部	角本 幹夫、上島 智
和歌山県立医科大学	須野 学、江頭 伸昭	徳島文理大学薬学部	四宮 一昭
就実大学薬学部	島田 憲一	福山大学薬学部	片山 博和

監事 平田 収正（和歌山県立医科大学）

実務実習指導者養成小委員会 木下 淳（兵庫医科大学）

（順不同、敬称略）

議事

協議に先立ち、中川先生（和歌山県立医科大学）より、実務実習に関するアンケート調査の実施概要について説明があった。

その後、次第に従い会議が進行された。

協議事項

1. 2025年度実務実習について

名徳委員長より、2025年度の実務実習は順調に進行しており、第2期が間もなく終了する旨の報告がなされた。

2. 2026年度実務実習施設調整等について（協1）

名徳委員長より、2025年度と同様の方針で施設調整を行っており、2026年度もこれを踏襲する旨が説明され、承認された。

変更点として、以下の点を示された。

学生-施設のマッチング再調整

- ・再調整①：2026年1月16日まで（学生の入替対応）

第Ⅰ期開始不可となった学生の施設（薬局・病院をセット）と第Ⅱ期以降開始学生の施設間での入替を認める。

学内での1対1入替のみ可。3者間の玉突き形式は不可。

目的：第Ⅰ期直前キャンセル回避、および再調整②対象人数の減少。

- ・再調整②：2026 年 3 月（共用試験不合格等による第 I 期開始キャンセル対応）

3. 2025・2026 年度近畿支部別学生数（総数）について（協 2-1, 協 2-2）

名徳委員長より、資料に基づき説明があり、承認された。

2025・2026 年度を比較したところ、地域ごとの学生数に大きな変動はなく、全体として安定していることが確認された。

大阪府の吹田・箕面支部の増加は大阪大学の実務実習生増によるものであると説明された。

4. 2025 年度ワークショップ開催計画の一部変更について（協 3）

木下先生（兵庫医科大学）より、資料に基づき説明がなされた。

タスクフォースや参加者の事情から、2025 年度に第 133 回・第 134 回 ワークショップを 2P6S（計 60 名規模）で開催する提案がなされ、承認された。

5. 2025 年度タスクフォース推薦者数について（協 4）

木下先生より、資料に基づき報告がなされた。

大学・団体間で推薦者数に不均衡があるため、今後の協力を要請する旨が確認された。

また、ワークショップ終了後にタスクフォース希望者を効果的にリクルートする方法論の構築を進めることが報告された。

6. 実務実習トラブル対策レポートについて（協 5）

名徳委員長より、資料に基づき説明がなされた。

今回は薬局からの複数報告があり、以下の事例が確認された。

- ・学生の個人情報管理に関する認識不足
- ・担当教員による指導薬剤師情報の部外漏洩
- ・実習中に学生の妊娠が判明したが大学が把握していなかった事例
- ・指導薬剤師の許可なく患者への服薬指導を行った事例

7. その他（質疑応答）

1) 実習施設以外での実習における交通費負担について

伊藤先生（大阪府薬剤師会）：施設外実習の交通費負担の扱いについて質問。

橋詰先生（京都薬科大学）：原則学生負担がこれまでのコンセンサスだが、施設ごとに対応が異なり今後の議論が必要。

伊藤先生：学生希望による参加のため対応が難しい旨発言。

小竹先生（近畿大学）：交通費は学生費用ではないのかと質問。

平田先生（和歌山県立医科大学）：施設の配慮で負担する場合もあるが、原則学生負担であると整理された。

2) 実務実習の追加実習について

橋詰先生：ワーキンググループで検討中だが方向性は未確定。

今後、近畿地区内で意見交換を行い、大学間調整を進める必要性を指摘。

事前実習の概略評価改訂、フェーズ 3 との関係、ガイドライン整合性などが論点。

松浦先生（大阪府薬剤師会）：追加実習の期間について質問。

平田先生：文科省の見解として「原則8週間」であることを紹介。単なる期間ではなく、実施内容の充実が重要であると述べた。

報告事項

1. 第53回 病院・薬局実務実習中央調整機構委員会報告（報1）

名徳委員長より、資料に基づき概要説明がなされた。

2. 指導薬剤師の定年制について（報2-1，報2-2）

名徳委員長より、「認定実務実習指導薬剤師認定制度実施要領（改訂版）」の修正内容について説明がなされた。

主な修正点は以下の通りである。

- ・実施時期が1年延長（令和9年〔2027年〕4月1日施行）された。
- ・施行時点で既に認定を受けている者は、満70歳に達しても認定有効期限までは資格を維持可能とされた。

3. 実務実習における確認事項について（報3）

名徳委員長より、「実務実習における確認事項について（お知らせ）」1）・2)について説明がなされた。

1) 合理的配慮について

平田先生より、個別事情に応じた適正対応が必要であるが、成績基準を下げるものではない旨補足。該当学生の要請に基づき、大学が責任をもって施設と協議することが重要であると確認された。

2) 認定実務実習指導薬剤師の実習中の異動について

資料に基づき確認が行われた。

4. その他

次回の委員会は2025年10月24日（金）18:00～20:00（Web開催）の予定とされた。

以上

記録担当：徳山 尚吾

《配布資料一覧》

協1：2026年度実務実習施設調整等について（案）

協2-1：2025・2026年度近畿支部別学生数（総数）

協2-2：2026年度近畿大学附属病院での実習予定学生の地域別人数

協3：WS開催計画の一部変更について

協4：タスクフォース推薦者数

協5：実務実習トラブル対策レポート（2025.4.1～7.6）

報1：第53回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会資料

報2-1：指導薬剤師の定年制について（お願い）

報2-2：認定実務実習指導薬剤師認定制度実施要領（改訂版）の修正について

報3：実務実習における確認事項について（お知らせ）